



ふんしんびりし

白山市国際交流協会 Hakusan International Association

No.9

2010年3月発行

オーストラリア・ペンリス市との親善友好交流20年を祝う

2009年11月、親善友好都市オーストラリア・ペンリス市では、市制50周年という記念すべき年に同市の姉妹都市等である静岡県藤枝市及び本市、さらに中国、韓国の姉妹都市等から代表団が出席して、市制50周年式典及び姉妹都市記念式典をはじめさまざまな記念行事が盛大に行われました。ペンリス市と静岡県藤枝市は25周年を、藤枝市の縁により交流がスタートした本市は20周年をともに祝いました。本市からは、北田慎一副市長を団長に、福住孝市国際交流協会会長、杉本典昭市議会議員、また焔太鼓演奏者らの文化交流関係者や市民等18名の白山市友好訪問団が現地を訪れ、今後の更なる友好を誓いました。



(写真左) 姉妹都市記念式典で、ペンリス市で醸造している酒樽で鏡開きをするペンリス市長（中央）と同市の姉妹都市等代表者たち。右から2番目が北田白山市副市長、3番目が北村藤枝市長（写真提供：ペンリス市）

(写真下) 交流20周年を記念して植樹したもみじの木の横で固い握手をする（右から）ペンリス市長、福住協会会長、北田副市長、杉本市議会議員、グリーンノー市議会議員



C・O・N・T・E・N・T・S

- 特集 ペンリス市との親善友好交流20年を祝う …… 1～3
- H.I.A.だより…………… 4～5
- あなたも親善大使お便りコーナー…………… 5
- 国際交流サロンのページ…………… 6
- JICA現地レポート …… 7
- H.I.A.からのお知らせ…………… 8

特集

思い出のフォトグラフ

記念式典



総勢250名が出席した日本、韓国、中国の3カ国5都市との姉妹都市記念夕食会（写真右）の席上、スピーチをする北田副市長（写真上）



日本文化展と写真展のオープニングでテープカットを行ったペンリス市長と藤枝市北村市長（右から2番目）、本市北田副市長（右端）と作品出展者の皆さん

姉妹都市コンサート「ビートマジック」

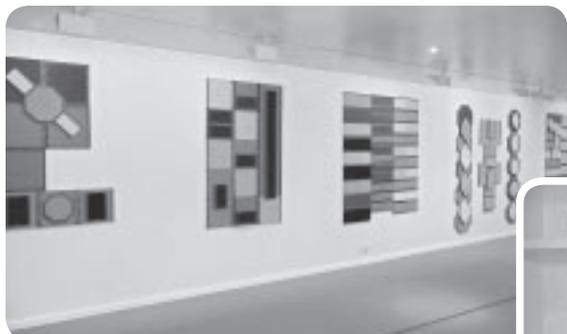


ペンリス市を含む4カ国6都市それぞれを代表するパフォーマーたちが「ビート」をテーマに行ったコンサートでは、本市の焔太鼓がフィナーレを飾り、会場は最高潮に達しました。（写真提供：ペンリス市）



（写真上）ペンリス市のサモアダンス
（写真下）焔太鼓の演奏にあわせて踊る藤枝市のブレイクダンサー

日本文化展・写真展



畳製造業者の大浦宏一ご夫妻（長屋町）が制作した小さな畳がペンリス市のアーティストにより展示された「たたみワールド」（ペンリス市リージョナルギャラリーにて）



角市長制作の抹茶茶碗



ペンリス市の写真家によって撮影され、藤枝市民と白山市民がモデルとなった写真展「ユニホームワールド」

ペンリス市との親善友好交流20年を祝う



▲2000年シドニーオリンピック漕艇競技会場のペンリス湖にて、表彰台上る団員の皆さん



▲ペンリス市を流れるネピアン川でクルージングを楽しんだ団員たち

初めてのホームステイ

この歳で異国の地でのホームステイ・・・どうなることかと日が近づくにつれて不安が募り、むしろ後悔の念すら抱きながらのペンリス行きとなりました。しかし、到着したペンリス市のホテルでホームステイさせていただくクーパーさんご夫妻にお会いした途端、優しい笑顔に安堵。初対面なのに昔からの知人のようにとても温かく迎えてくださり緊張の糸が少しずつほぐれていきました。ご夫妻は、日本の芸術や文化をとても好まれており、室内には日本の置物や掛け軸等がいろいろと飾られてありました。英語がうまく話せなく、会話内容を理解できないしていると、簡単な英語を探してゆっくりと話してくださったり、ジェスチャーを使ったり、その心遣いがとてもうれしく、感動しました。不安でいっぱいだったホームステイですが、とても楽しい時間を過ごすことができました。言葉は通じなくてもお互いをわかろうとすれば気持ちが通じ合うということが一番の思い出になりました。

(市民訪問団として参加したT・Nさん)



ペンリス市との主な交流

- 旧松任市の手押し消防ポンプをペンリス市にある州立消防博物館へ寄贈 (1991)
- 高校生ホームステイ相互交流がスタート (1993年～現在に至る)
- ペンリス市 JSPA センター落成記念公演で市内の青少年和太鼓グループ「サスケ」が演奏 (2005)
- ペンリス市の若手テノール歌手と松任中学校合唱部とのフレンドシップコンサートを学習センターにて開催及び松任博物館にてペンリス市人物写真展を開催 (2006)
- ペンリス市にも菊花フェスティバルがあることから、白山市菊花展において、ペンリス賞(スプレー菊の部)を創設 (2006～現在に至る)
- 金城大学短期大学部幼児教育学科学生が研修視察としてペンリス市でホームステイをしながら4泊5日の保育実習体験 (2006～現在に至る)
- ペンリス市で開催されたシニアウィーク(敬老週間)に本市の文化協会会員等が訪問し、老人施設やシニアセンターで伝統芸能を披露 (2008)

《往来人数(2010.3月現在)》

白山市(旧松任市)→ペンリス市 40団体 467名
ペンリス市→白山市(旧松任市) 25団体 203名

数字で見るペンリス市



ペンリス市庁舎

- 人口 177,686人
- 面積 407km²
- 世帯数 62,160世帯
- 住民の27.7%が17歳未満です
- 住民の11.9%が60歳以上です
- 住民の20.5%が海外生まれです
- 住民の13.5%が家庭で英語以外の言語を話します
- 住民の2.4%が先住民です
- 市議会議員は15人です
- 市の管理運営センター(庁舎)は2か所あります
- 市職員は1,160人です
- 市の予算(2009-2010)は1億8,050万オーストラリアドルです

ロシア式バーベキューで交流

10月18日

県内に在住するロシア出身の留学生の皆さんとロシア式バーベキュー“シャシリク”を楽しみながら、同国への理解を深める交流会をNPO法人YOU-Iの協力を得て、白山吉野オートキャンプ場で開催しました。シャシリクとは、酢やオリーブオイル、香辛料などに漬けた肉を焼くロシアの代表的な串焼き料理です。11名の留学生の皆さんは、事前に漬けて込んであった肉を焼き、参加した21名の協会の皆さんにふるまい、作り方などの説明をしていました。食後は、留学生の皆さんとロシアのゲームを楽しみました。



▲ダイナミックなロシア式バーベキューを楽しむ参加者の皆さん

世界の料理と文化を学ぼう

フィリピン料理 (10月26日)

フィリピン料理教室を、同国出身で市内在住の嶋リサさんを講師に、鶴来保健センターで開催しました。ゴーヤを使った炒め料理や鶏肉の酸味煮込み料理などを習い、参加者の皆さんは、「すぐに家庭で生かせる」と喜んでいました。

ブラジル料理 (11月27日)

県国際交流員の原口リリアンさんを講師に、ブラジル料理教室をプラスあさがおで開催しました。ココナッツミルクをふんだんに使った魚料理やお菓子作りに挑戦し、南米の料理を楽しみました。

土井利昭さん日本語指導で県知事表彰受賞

1月25日

今年度の県国際交流・協力功労者として、市国際交流サロンで長年、日本語指導ボランティアとして活動を行っている土井利昭さん(倉光西二丁目)が県知事表彰を受賞されました。土井さんは、定年後、平成9年に、ボランティア団体「モーニンググローリー松任」に所属し、外国人住民へ日本語指導を行う傍ら、生活相談や就職活動のサポートにも尽くしてきました。現在も、週2回、同サロンで日本語指導を行う土井さんは、「13年間、元気で活動を続けて来られたのも、家族や仲間、周りの皆さんのおかげです。これからも、できる限り、続けていきたい。」と話されていました。



魚副市長に受賞を報告する土井利昭さん(左)

第15回国際フレンドシップアート展

10月19日～1月28日

親善友好都市等の小中学生の絵画を一堂に展示する国際フレンドシップアート展に、今年は、「私たちの街」をテーマに市内小学生を含む6カ国7都市から126名の作品が集まりました。写生画や、町の見どころをモチーフに描いた絵画など、どれも住む街への愛着が感じられる作品ばかりです。作品は市内8か所の施設や小学校で展示されました。また、各都市から1点の優秀作品が、市内在住の画家西のぼる先生によって選ばれ、それらの作品は、市のホームページでも紹介されています。



作品を見る小学生たち(美川小学校にて)

年忘れ！国際交流の集い

12月13日

毎年、年末に開催していたクリスマスパーティーは、非キリスト教徒の外国人住民にも配慮し、今年から忘年会という形をとり、誰でも参加できるように改めました。サンライフ松任で行われた同会には、過去最多の12カ国・地域の外国人住民約90人を含む約160名が参加しました。外国人の皆さんは、それぞれの国の歌や踊りなどの一芸を披露しました。とくに、ベトナムチームが披露したバンブーダンスでは、参加者が次々と挑戦し、大いに盛り上がりしました。



▲お国の歌を披露するインドネシア人研修生の皆さん

HIA 語学講座

1月～3月

今年度の語学講座は、英語初級コース2クラス、中級コース及び韓国語入門コースの4クラス(8回シリーズ)を開講しました。英語初級コース(美川クラス)では、講師の熊田キャロリンさんが、出身国のオーストラリアを毎回、趣向を凝らしたテーマで紹介し、途中、英語でのお菓子作りにも挑戦しました。

多文化共生庁内ワーキングを発足

2月26日

増加する外国人市民と接する機会が多い医療、保健、福祉、環境、防災等の業務に従事する市職員等10名で構成する庁内ワーキングを発足し、外国人市民が置かれている状況や、生活する上で生じる問題点やニーズなどについての意見交換会を行いました。今後は、同ワーキング活動を中心に横の連携を持ちながら、多文化共生施策を推進していく予定です。

H.I.A. だより

白山市の魅力を紹介するツアーを開催しました

— 「太鼓と俳句ワークショップ」と「雪だるままつりツアー」 —

昨年度より協会が取り組んでいる本市の魅力を県内外に発信し、誘客を促進するツアーを今年も開催しました。本市の特有の文化である「太鼓」と「俳句」を体験してもらうワークショップツアーは、1月31日、千代女の里俳句館と浅野太鼓楽器店（福留町）において実施しました。同ツアーには、金沢大学や金城大学の留学生16名が参加し、初めての俳句作りや太鼓演奏を体験しました。

また、2月12日の白峰地区の雪だるままつりには、県外の留学生を含む11ヶ国38名の外国人が参加し、雪だるまにろうそくがライトアップされた幻想的な風景を楽しんでいました。



▲小丸俳句館館長（右端）から俳句について学ぶ留学生たち



▲白峰雪だるままつりにて



▲浅野太鼓楽器店スタジオにて太鼓ワークショップ

“あなたも親善大使” お便利コーナー

このコーナーは、草の根レベルで交流を行っている皆さんを紹介するコーナーです。皆さんからのお便りをお待ちしています。

アメリカの友達アビーとの再会

私は3年前の夏、中学生の時にアメリカコロンビア市との交流事業に参加し、ホームステイ体験をしました。そのときのパートナーであったアビーは、今でも頻繁に連絡を取り合う大事な友達です。2年前、アビーが白山市を離れる時、お互い、「また来年」と言い合っていましたが実際は半分あきらめていました。しかし、アビーが去年大阪に1年間留学するということが決まり、大阪に会いに行きました。大阪でのホームステイ先に私まで泊まらせてもらい、アビーと再会することができました。さらに、大阪に来ているいろいろな留学生とも交流ができ、とても貴重な経験をしました。今でも信じられないくらいうれしかったです。たった2週間されど2週間。アメリカに行ったこと、アビーと出会えたことが私を変えました。

（千代野西八丁目 丸田 葉月）



▲コロンビア市のアビー（前中央）と再会した丸田さん（後列右から3番目）